

■選択科目『社会学』の履修者へ

(前期・水曜日・ユニティ 教室開講科目＝1年生担当＝)

担当教員 榎田美雄 (専門基礎科学)

(kashida.yoshio@nifty.ne.jp)

(078-794-8074、研究室)

(1) レポート課題

レポートの締切は、7月18日水曜日午後4時30分。提出先は、教室内の榎田(持参ということ)※ただし、諸事情で欠席する場合は、同時刻までに、榎田のメールアドレスまで送信して下さい。課題にはテキストおよび授業を踏まえて回答すること。(レポート正本1部は榎田に提出すること)

なお、2018年7月18日の授業で、書いてきたレポートに関する発表を、20分プレゼン+10分質疑応答(交替1分)で、実施してもらおう(レポート提出人数次第では変更の可能性がある)。パワーポイントファイルでの発表がのぞましいが、ワードファイルでも構わない。スクリーンをつかわずに、紙での配付資料のみに基づく発表でも構わない。プレゼンターは、発表用資料(A4で数枚)を6部作って持参し、配布すること(配付資料上部に氏名、タイトル、レポート題名、前半の課題の番号を記載せよ)。

下記の通り、課題は、前半と後半に別れているが、前半の内容(の一部)に関するプレゼンをするのか、後半の内容(の一部)に関するプレゼンをするのか、レポートとして提出したものの全部を発表するのか、については、発表者の随意とする。

(2) 前半の課題：

以下の6題のうち3題を選んで各400字以内で回答せよ(計1200字以内)。

①5章を踏まえて、「生命保険の現状と未来」について、現代の家族の状況や医療の状況を踏まえて、考えるところを記せ。

②10章を踏まえて、「年齢の効果とされていたものが、世代の効果であると判明したもの」に関して、事例を挙げて述べよ。

③16章を踏まえて、<存在することの価値>について社会学的に解説をせよ。

④17章を踏まえて、「幸せなら手をたたこう」と歌う意味について考えたことを述べよ。

⑤大学教員は、「共有地の悲劇」における「共有地」と見なしうるか、否か、考えるところを理由付きで記せ。

⑥後半の授業を踏まえて、「文脈依存性」を有意味性(レリバンス)ある形で特定する活動をすることが、質的研究においてどのように重要なことであるのか、事例を挙げて述べよ(関連授業は6月20日以降に実施)

(3) 後半の課題：

社会学の視点に基づいて、「現代の日本の若者はどのように社会学を学ぶべきか」をテーマに、現在、日本に生起している社会事象(たとえば、消費社会化、インターネット社会化、少子高齢化、グローバリゼーション、リスク・コンシャスネス社会の到来等々)を1つ以上取り上げ、考察せよ。授業の内容に準拠していることは望ましいが、授業で扱った事例をそのままぞった場合は低い評点となる(独自性が評価される)。字数は1200字以内とする。

※紙は、A4版とする。表紙には、氏名と学籍番号と選択した前半課題の問題番号の数字を書くこと。

【掲出希望期間：2018年5月23日～7月18日】